

更生保護に関わる人たちと取り組み

<全体のまとめ> 犯罪や非行を行った人たちが社会復帰していくためには、保護司や BBS 会、更生保護女性会といった更生保護に関わる人たちや、地域の人たちの協力が大切と感じました。また、子ども食堂への参加を通して、安心安全な社会を作っていくためには、地域全体が一体となって課題と向き合っていくことが大切であると実感しました。


更生保護とは

・更生保護は、犯罪や非行をした人たちに
対し、社会の中で立ち直りに向けた指導や
支援を行うことにより、その再犯を防ぎ、
社会復帰と自立を助ける活動

↓

「居場所づくり」と「就労支援活動」が重要

更生保護活動には地域社会との連携が必要不可欠



保護司さんへの質問


保護司になったきっかけとは **なぜ続けられるのか**

PTAや地域でのボランティア活動、児童連統殺人事件で保護司を知ったのがきっかけ。

保護司は仕事ではなく人の助けになりたいという気持ちでやっており、「少年の立ち直りを助けること」を大事にしている。保護司が一番しんどいボランティアであり、やめたくなることもあるが、理解してくれる家族がいることや、相談できる仲間の保護司がいることで続けることができる。

やりがい

必ずうまくいくとは限らないが、少年たちが無事に更生できることがうれしく、保護司としての経験や自信にもなる。



更生保護に関わる人

BBS会
Big Brothers and Sisters Movementの省略で、少年少女たちの兄や姉のような存在として一緒に遊び、一緒に学び、一緒に遊ぶボランティア活動です。

更生保護女性会
地域社会から非行や犯罪をなくし、過ちに陥った人たちの立ち直りを支援する全国組織の女性ボランティア団体です。

保護司
保護観察を受けることになった人の生活を見守り、相談に乗ったり、指導をしたりします。保護司は法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員ですが、活動は基本的に無給で、ボランティアとして活動しています。

更生保護に関わる人には、保護司、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主といった大きく4つの団体があります。その中でもここでは、**保護司、更生保護女性会、BBS会**について紹介します。


保護司に必要なこと **少年を社会で受け入れていくために必要なこと**

必要なことは聴くことである。保護司は聴き役であり、少年の話に対して指示をするのではなく、アドバイスを行うことが重要な役割である。待つことも必要であり、担当している少年が必ず来るわけではなく、来る気のない日や寝坊する日もあり、その場合は保護司は予定の調整をしなければならない。

保護司自身の力だけでなく、家族から理解を得ることも必要である。

罪を犯した少年に対する周囲の目は厳しく、少年が自立して生活するには、保護司だけでなく、地域や企業など周囲の協力が必要になる。今はネット上の目に見えないトラブルが増え、保護司でも対応が難しくなっている。特に仕事関係が難しく、SNSで個人情報が見え、誹謗中傷を受けて職につくことも難しい少年がいる。一度罪を犯すと社会からの扱いは厳しい。そのため、犯罪予防や更生の正しい知識を広める「社会を明るくする運動」といったイベントを開催し、多くの人に少年について理解してもらえるような活動をしている。

BBS会の活動について①



ともだち活動


- BBS会員が、兄や姉の立場から同じ目線に立って、非行少年たちの話し相手、相談相手となり、成長や悩みの解消を手助けする活動。
- 学習支援など

グループワーク活動


- BBS会員と保護観察中の少年たちや、社会復帰を目指す人が一緒に、社会性や協調性を育む活動。
- スポーツ大会やクリスマスパーティーなど

子ども食堂

子供やその親、地域の人々に対し無料または安価で栄養ある食事や暖かな団欒を提供



地域の交流の場としても活躍する場所も



BBS会の活動について②

社会参加運動


- 社会奉仕活動などの様々な活動に参加し、社会奉仕の役に立つ喜びを分かち合う活動。
- また、BBS会員や保護司以外との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。

自己研鑽活動

- BBS会員自身が更生保護や近接領域について学び、理解を深める活動。
- 保護司や保護観察官などによる講演会や、更生保護に関する自主勉強会、研修会など

非行防止活動

- 様々な広報活動や各種イベント、集会などを他地域や施設、犯罪や非行のない明るい社会の実現に努めている。



ほんわかキッチンでは

子供だけでなくお年寄りも頼れる場所である

食堂としてだけでなく不登校の家族の相談の支援も



地域が支え合う場所として子ども食堂を作ることで周囲から認められた

